

基本理念
 社員で考え社員のための労働運動を目指す、企業内労働組合
 心とこころをつなぐ相互扶助活動と、次代につながる社会正義の実現を目指す
第 12 号

JUSTICE

ジェイアール・イーストユニオン
J R 連 合

ジェイアール・イーストユニオン
 発行者 菅野 一位
 編集者 教 宣 部
 〒105-0021
 東京都港区東新橋 2-8-28
 TEL (J R) 057-7333
 TEL (NTT) 03-6452-9687

総括答弁 国井事務局長



多くの代議員からの発言に感謝する。組合加算金撤廃については、この組合費でこれだけの運動が出来る事を他の労働組合に見せつけたい。東労組は 14 ヶ月分の組合費で何をやっているのか？ 偏った社会運動と反弾圧集会を主とし、ガス抜きのように業務問題やレクリエーションを行っている。

我々に求められている運動は、我々のため、お客さま・国民に信頼されるための労働組合、会社にしていくための運動である。決して彼らのようにならないため、一人ひとりが自らを律しこの運動に愚直に取り込んでいかなければならないと考える。加算金の撤廃は今後、組織財政検討会で検討していく。

安全の問題。繰り返し起きた事象や落雪による脱線事故についても、本部・本社間の安全経協において指摘してきた。日々現場で働く我々でないと分からないこの声を、支部・地本・本部と一つひとつ積み上げながら、より良い議論に繋げていきたい。経協の内容を文章で知らせることは難しいが、組合員から強い要望のある、事故や不具合があった際のタイムリーな申し入れの要請はシッカリと受け止め、今後の業務改善にあたっていく。

あと 5 年で J R 東日本は大きく変わる。社員の半数がいなくなり、入ってくるのはおそらく三分の二程度だろう。鉄道部門社員は今後、縮小されていくが仕事なくなるわけではなく、会社は業務委託でスリム化を図っていくのだから。スリム化で安全が蔑ろにされるようなことになれば、我々が築いてきた J R 東日本というブランドが、根底から崩れ去ることも考えられる。会社とともに真摯に協議し、J R 東日本を守り、家族の幸せと組合の地位向上に向けて本部が先頭に立って頑張っていく。組合員からの下支え、組織拡大による健全な組合の台頭こそが、健全な会社になっていく道と考えるので協力をお願いしたい。

事故を風化させない取り組みは重要と考える。今年 12 月には羽越線脱線事故現場での献花を計画している。我々の経験を後輩に伝えていきたい。我々には与えられるだけでなく、ともに考え発信する労使関係を創っていかねばならない。ともに考え悩みながら成長を続けていきたい。全組合員一致団結して頑

質疑には 12 名の代議員が発言に立った。質疑の概要は次のとおり。

福知山、羽越線の脱線事故から 10 年、また、飯山線踏切事故を防げなかった労働組合としての責任を胸に日頃から努めてきた。会社は基本動作や訓練など徹底しているが、足りていないのが実態ではないか。類似した事故も続いている。本部も安全確立について労使の垣根を越えた取り組みを。

只見線は現在も運休区間のバス代行が続く。J R 連合県協として、県交運労協と運輸局とで問題を取り上げている。災害対策含めた政

策に対する本部の取り組みを。住環境制度の改正について会社提案された。受益格差の是正や住宅利用機会の均等になるのか。傾斜家賃、地域格差、所要年数も含め考慮してもらいたい。

効率化に伴う委託化が進められる中、現地責任者についても委託化しようとしている。本体の丸投げでは安全を考慮の上で問題がある。旅行業委託も地方に提案やスケジューリングなどを前店にお願いしたい。

仙山線事故では支社に対策等を申し入れた。本部もリアルタイムに本社に申し入れをして欲しい。東海道新幹線での焼身自殺以降、新

幹線の安全対策が必要。東京・大宮間では警備配置もあるが、乗務員には大きな負担となる心配がある。

若手に対するベテランの技術継承、協力会社と一体となった対応も考えなければならぬ。支社との議論も大切であり、本部の指導をお願いする。職業委託の拡大と旅行業についても、モチベーションは基より労働条件や指導・育成も考えなければならぬ。将来像をはっきり示して欲しい。

我々に必要なのは情報発信力を高め、認知度を上げること。先輩たちから受け継いできた民主化闘争の完遂を目指す。最後に、ワン・フォー・オール、オール・フォー・ワンについて調べたが、平尾選手は「皆は勝利のために！」そのためにも一人ひとりの自立が必要だ」と言っている。

3 月から田端駅頭で支社社員対象のチラシ配布を再開した。顔を見てもらい、知ってもらおうことで徐々に受け取ってくれるようになった。本部作成のチラシもお願いしたい。また、HP を一日も早く整備し、J R 連合の HP にリンクしてもらえよう。

国民、お客さまから信頼され愛される会社を創るには、革マル浸透問題の解決なしにはならない。一日も早く信頼を得られるよう、そこに相応しい労働組合が求められる。

米坂線脱線事故で地本は申し入れをしたが交渉は未開催。安全確立を掲げた会社の対応としてはお粗末である。現場は毎年雪崩が発生しているが、対応対策がされてない。事故現場もその翌日に除雪することとなった。人手不足や技術継承を含めて、何を成すべきかハードソフト両面の対策を会社に求めてほしい。

昨年度 9 名の労災死亡事故が発生、いずれも協力会社である。押し付けや無理をさせているのではないかと。一緒に技術や知識のレベルアップをはかり、信頼回復に努めなければならぬ。J R 連合の行動指針を、私たち少数でも実行し見せていかなければならない。東海道新幹線車内での焼身自殺では犠牲者も出した。車内や改札などにおける対策を、会社と一緒に考えてもらいたい。

業務委託化について。エルダーとプロパーが共存し、特に運転関係では問題が。お客様には社員も委託も関係ないので、同じレベルの訓練も必要。人材確保の点から考えればならない。

京浜東北線基地再編後、東十条電車区跡地に東京支社の訓練センター設立を企画していたが、約 3 割の要員で電車区が残った。無駄な事をしていく。

ジェイアール・イーストユニオン 第 3 回定期大会

真に笑顔が競う合える職場を創造し、社会から信頼される会社を創り発展させるため、自らを律し、より献身的に、積極的に闘いを「前に！」推し進めていく！

新潟駅の立体交差化事業は 6 年後に完成の事業であるが、今後問題が出てくると思われる。新津車両製作所が子会社化したときは、分割・民営化時と同様の不安があった。北陸新幹線の開業でも、間近になってもプレス発表の他には会社からの詳しい情報がなされなかった。大きな事案については早めに分かるようにしてもらいたい。

本部・本社間での検証を進めてもらいたい。北陸新幹線に続き来年は北海道新幹線が開通する。東日本管内で新幹線を止める事無いようシッカリ議論してほしい。

新潟駅の立体交差化事業は 6 年後に完成の事業であるが、今後問題が出てくると思われる。新津車両製作所が子会社化したときは、分割・民営化時と同様の不安があった。北陸新幹線の開業でも、間近になってもプレス発表の他には会社からの詳しい情報がなされなかった。大きな事案については早めに分かるようにしてもらいたい。

(二面に続く)

発言に立つ
代議員

(一面から続く)

主務職を含めた「管理本部」的なものを作ってはどうか。本部にはいい意味でのアピールを会社にお願いしたい。

JR連合の一員として地域との連携など大切。地方議員との交流、報道関係も含め本部もぜひ進めて欲しい。財政では加算金の撤廃とあるが、組合費は一旦下げると上げることは難しくなる。書記の雇用なども検討してほしい。

革マル派の排除は、今の若い者に苦勞をさせないという思いでもある。職場は平成採用が半数以上となっている上、高学歴で労働組合に対する理解や指導者育成も難しくなっている。学習会などの学び、実践、生涯学習の精神、行動計画など必要では。

技術継承について。若手が大半となり要員需給は社会人採用などの運用でやっているようだが、場当たり的な対応ではないのか。人命に関わる、安全・安定輸送は鉄道事業の特徴でもあり、そこには信頼が不可欠。教育カリキュラムの見直しも必要ではないか。教育は、安全確保のための根底である。チーム公共交通の地域での理解

発言に立つ
代議員

秋山副委員長
参院選では、民主党の中で我々と志を同じくする議員を、より多くの得票数で当選させる運動で彼らと対抗していきたい。我々の考え方は東労組の一部には到底受け入れられないだろうが、多くの皆さんには受け入れられる普通の考え方。この国が、家族が、仲間が大切。



を深めたい。交通労働協などで、それぞれのモードの長所や短所を出し合っただけでなく、地域の公共交通の発展に努めたい。具体的な働きかけを望みたい。

北陸新幹線開業ではJR西日本から60数名が「ときめき鉄道」に出向となっている。交流も含めやりたいので、本部、JR連合からの参加を要請したい。

池田組織部長
我々自身に遠慮していた部分も確かにある。失敗してもいいから加入の言葉をかける勇気を、さらに前面に押し出していかなくてはならない。

我々の組合が認識されていないことも事実。いろいろな手を使っ、て、広く知らしめることが緊急の課題。

秋山副委員長
参院選では、民主党の中で我々と志を同じくする議員を、より多くの得票数で当選させる運動で彼らと対抗していきたい。我々の考え方は東労組の一部には到底受け入れられないだろうが、多くの皆さんには受け入れられる普通の考え方。この国が、家族が、仲間が大切。

秋山副委員長
参院選では、民主党の中で我々と志を同じくする議員を、より多くの得票数で当選させる運動で彼らと対抗していきたい。我々の考え方は東労組の一部には到底受け入れられないだろうが、多くの皆さんには受け入れられる普通の考え方。この国が、家族が、仲間が大切。

大会宣言

私たちジェイアール・イーストユニオンは五反田文化センターにおいて「組織拡大をもって民主化闘争完遂の道筋を明確にし、安全で社会に信頼されるJR東日本を築こう！」をスローガンとする提起された運動方針を満場一致で確認した。

今年はJR福知山線事故、JR羽越線事故から10年の節目を迎える。私たちは、この事故を決して忘れない。現在も、この事故の被害者、ご遺族は深く悲しみ、苦しんでいる。私たちの仲間も、また、悩ましく苦しんでいる。私たちはこの仲間の思い立ち行動を展開していく。私たちの参加するJR連合は「安全指針」を策定、「安全追求に妥協はない」との認識の下に、JRの存在意義や役割を再認識し、安全で社会に信頼され、貢献できる会社を築くため「行動指針」を提言している。私たちは安全、第一の職場風土を築き上げるため、この「行動指針」を会社に着実に広げる行動を積み重ねていく。

今年、春季生活改善闘争、夏季手当交渉では私たちの会社における問題点が浮き彫りになった。労使の信頼関係は相互の責任を全うする事ではないか。労使で創り上げた制度を一方的に否定する事があってはならないと考える。多くの組合員を盾に自らの真意を隠している時代を超えて目的を達成しようとする者本質がそこに露呈しているのではないか。私たちはその事を断じて看過してはならない。揺るぎない信頼関係を創り上げJR労働界をリードし、自らの政策を実現する運動を強化していく。

今秋、東北地方を中心とする統一地方選挙が行われる。私たちは組織内候補であり互理町の現職議員である小野一雄氏の3期目の当選をめざして取り組みを一層強化していく。自身も罹災者でありながら、笑顔で議員として地域活動に邁進している彼の後姿にこそ私たちの同志の生きざまがある。私たちは組織の総力をあげて小野議員の当選を勝ち取る運動を展開する。小野氏の当選を獲得することを通して地元の東日本大震災からの復興に弾みをつけていく。

16年もの長期にわたっている「民主化闘争」は小康状態にある。私たちは現状を打破する行動を積極的に展開していく。昨年10月、JR総連・東労組がJR東日本会社を相手に起こした「浦和電車区地位確認等請求訴訟」は会社側勝訴、JR総連・東労組側敗訴で結審している。さらに、昨年末の衆議院予算委員会では安倍首相はJR総連及びJR東労組への過激派革マル派浸透問題を指摘、由々しき事態であると警鐘を鳴らしている。国鉄改革の残滓である過激派革マル派問題を自らの行動によって実現していく。私たちは、この間、仲間を派閥の観点から社会に訴える行動を展開してきた。本年はあらゆる状況をとらえてより先鋭的に行動する。特に、私たちの喫緊の課題である組織拡大については能動的に運動を進めていく。組織拡大なしにさらに安全で信頼される会社の構築はなしえない。私たちは本部が提唱する組織拡大作戦についてすべての組合員が参加する中から成果を上げていく。私たちに心を寄せて戴いている仲間、先達の思いを決して忘れてはならない。真に笑顔で競う合える職場を創造し、社会から信頼される会社を創り発展させるため、自らを律し、より献身的に、積極的に闘いを「前に！」推し進めていく。上記、宣言する。

平成 27 年 7 月 11 日
ジェイアール・イーストユニオン
第 3 回定期大会

切。そして自由で民主的なこの日本を、さらに発展させていこうという考え方。そういった運動の中で我々は前向きに頑張っていく。組織拡大については臆することなくチャレンジすること。我々は何をしたいのかという事を訴えていく。この会社で何をしたいか、どう生きてきたのかを伝えていく。国鉄改革に苦勞し道半ばで辞めざるを得なかった先輩たちの後姿に学んだこと、この会社や普通の労働組合を作ろうとした人たちの志を伝えていく。そしてその向こうに我々があり、我々でしか未来を切り拓くことはできないということ。多くの人たちに理解してもらおう。会社の考えや施策を正しく行うため、そういう思いをこめて責任を持って働くことが大切。

運動はタイムリーが一番。機を見て敏に反応する本部を作る前提となるのは調査能力。現場の問題と解決法を我々の側から提示することも大切。組合員には職場の人たちの話を、組合は違っても働く皆さんの思いを本部に伝えてもらいたい。本部はその思いを会社に伝えていく。

か。それらを含めてシツカリと交渉していききたい。業務効率化の関係。大量退職時代を向かえて、委託や業務の効率化が非常に速いスピードで進んでいる。会社にはこれからの交渉の身を前広に言っていたら、なるべく早目に皆さんにお知らせしたいと思う。首都圏は人が足りず、他支社で採用の方が東京に来て2年で戻る。本社もそれは重々承知している。交渉は効率化を含めて分かり次第お知らせしたい。

和知財政部長
今年度中に財政検討委員会的なものを受けて返済金について考えていきたい。書記の雇用や減額も含めて検討したい。



今回退任された菅井執行委員お疲れ様でした

大会は、菅井執行委員の退任を含めて全ての議事を承認し、大会宣言を採択して盛会の下に終了した。

機関整備も終わり、8月中にはホームページも本格稼働する予定です。積極的に関わりを「前に！」全員一丸となって頑張りましょう！